

令和8年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

日 時：令和8年4月30日（木）午前9時30分から

場 所：白井市役所東庁舎3階303・304

出席者：【委員】

関谷 昇会長、佐藤 英明副会長、伊藤 治委員、岡田 光一委員、
山本 勇氣委員、阿部 健一委員、中村 龍二委員、土生津 祐子委員、
星野 真一委員、米山 弥美委員

【事務局】

企画政策課 竹内課長、齋藤係長、飯田主任主事、河野主事

1 開会

2 委嘱状交付式

まち・ひと・しごと創生審議会委員へ市長から委嘱状を交付した。

（任期：令和8年4月30日～令和11年4月29日）

3 市長あいさつ

4 委員・職員自己紹介

5 会長・副会長の選任

白井市附属機関条例第3条の規定により、委員の互選により選出することと定められており、委員からの推薦により、会長は関谷昇委員が選出された。会長からの推薦により副会長は、佐藤英明委員が選出された。

6 報告

（1）白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【事務局】

資料に沿って概要を説明。

【会長】

先程、事務局から制度概要の説明がありました。それでは、白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略について、ご質問、ご意見がありましたらよろしくお願いします。

【委員】

特産品の応援事業となると、梨を思い浮かべるのですが、梨の他にもあるのでしょうか。

【事務局】

事業内容になってきますが、梨以外でも様々な産品を新しく認定していき、梨以外でも

増やしていくことが、趣旨となっています。

【委員】

先程、説明のあった国からの補助金について、おおよそどの程度なのでしょうか。

【事務局】

事業費の1/2が国庫補助の金額になってきます。今回の地場産業活性化事業は、3,979千円で、その半分の1,989千円が国費になります。

また、この地場産業活性化事業とは別で、議会中継の字幕表示や議会をオンラインで見ることができる市民の議会へのアクセシビリティ向上事業もありまして、こちらに関しては、事業費が46,285千円に対し、23,142千円が国費になります。

なお、地場産業活性化事業については、地域未来交付金の地域未来推進型で3年間の国庫補助になります。一方、市民の議会へのアクセシビリティ向上事業は、地域未来交付金のデジタル実装型で1年の国庫補助になります。

補助金の種類によって期間も変わると認識いただけると幸いです。

【会長】

地場産業活性化事業は3次の総合戦略に明記されていますが、どういう方向性と狙いで進めていこうとしているのでしょうか。

【事務局】

狙いは、例えば、工業団地や商業、教育といった事業が線であったものを綿で結び付けていくことにより、面として事業規模を発展させていければと考えております。そして、面によって循環させる仕組みづくりというものができればと考えております。

【委員】

点を面にしていく話なんですけれども、私もそのように考えておりますが、点から面へってなかなかできないと思うんですね。いろいろな事業主体の方がおりますので、具体的にはどのようにしていこうと考えているのでしょうか。

【事務局】

委員のおっしゃる通りなかなか難しい部分もあると思います。関係課、関係機関がそれ

それぞれあるので、難しいのが現実だと思います。ただ、今回、国費がおりたので、それをきっかけに関係課で連携し、この3ヶ年という期間に相乗効果を図ることができればと思います。

【委員】

おっしゃることは何となく分かりました。面にするよう取り組んでいければいいなと思います。よろしくお願いします。

【会長】

相当大変なことだとは思いますが。地方創生については、内閣府等の省庁で、地方創生でどんな取組をしているのかという成功事例があったと思います。なので、そういった部分をご覧くださいといいかなと思います。

その中で、うまくいっているところは、横断的な動き、面的な動きをかなりやっています。どのようにやっているかとなりますと、例えば役所なら縦割りだから、役所内でプロジェクトチームを作って、更に、企業、農業をやっている方も入って施策を練っていく、白井市としては、どういう動きをしていくのかというのは、今後検討になってくると思いますが、横断的な部分でどうしても陥ってしまうのは縦割り、行政の縦割りというのはよくあると思いますが、地域もかなり縦割りがあって、農商工がどのくらい交わっているのか、経済活動、市民活動をされている方がどのくらい交わっているのか、市内外の方がどのくらい交わっているのか、交わりが薄いところがあると、そこをどういう風につないでいくか、そこは本当に大きな課題になってくると思います。これから動かしていく中で、我々も知恵を出し合っていく必要があると思いますが、そういった問題状況があるということをおきまして。

【委員】

トマトの工場というか、今後トマトの試験を行っていくと思いますが、長い視点で見て、利益の出るような形で続けていく、具体的な案というのは考えておられるのでしょうか。

【事務局】

トマト栽培の事業は農業関係の国費で、地方創生関係とは違う国費なので、趣旨が違えば申し訳ありませんが、一応、この地方創生関係の交付金が3年間の予定ですが、その後は自走していくというのが条件のため、自走していくような仕組みづくりの形成は今後の

課題かなと思います。

【委員】

今回の補助金について、農業以外の項目、例えばどんなものがあるのでしょうか。

【事務局】

地域未来交付金というものが、産業、商業もあり、交付金の規模も年々大きくなっています。先程の発言内容からあった事例集をみると、幅広い交付金の形になっています。

また、都市にいても地方にいてもという観点からデジタル化の事業についても国庫補助の対象になっています。例えばマイナンバーで図書館の本が借りられるとか、そういったデジタル技術を開発したものに国庫補助はおりていますので、大きく産業関係とデジタル技術の開発といった2つ潮流が国庫補助としてあると思います。

【委員】

地場産業活性化事業については、今のところ農業分野が中心ということでよろしいでしょうか。

【事務局】

農業・商工業・お仕事体験といった構成になっております。

【会長】

補助金をどのように活用していくか、またこれを獲得しに行くというのも問われてくると思います。今、自治体もお金を取りに行くという時代になってきています。

国は完全に自治体を競争させています。待っててもらっては困ると、知恵を出し合って、いろんな企画を立てて応募する、そして優れた企画にはどんどんお金を出す。石破政権から高市政権に代わって何が変わったかという、端的にいうと、強い経済をつくるという方向に向かっています。そういう意味では、地域でどういう強化を図っていけるかということになり、自治体によっては「稼ぐ課」というものをつくっているところもあります。

交付金を取りに行くための体制づくり、そういった部分を逃すと本当に乗り遅れるというのが現状だと思います。

自治体を競争させるのがいいかどうかというのは別の問題としてあると思いますが、間

違いなくその流れになっていると思います。地場産業活性化事業もどういう風な形で稼いでいくのかっていうことは本当に知恵を出し合っていくという必要があると思います。地方創生っていうのは、地場産業、地域課題を解決するという、もちろん産業そのものの強化、そこにいろんな人が携わるという人の流れ、またそこで巣立った若者たち、外でいろんなことにチャレンジしたいなっていう若者たちを白井市の産業がどういう風に受けていけるかという、この人の流れを作るとというのが、地方創生なんですね。なので、白井市で生まれ育った人たちが、地域の産業に関わって、経済を大きくしていくという人の流れ、ものの動きを作れるかというのが基盤強化であって、それを戦略的にどうやって進めていくかというのがこの話なんですね。なので、お金をどんどん取りにいくために企画を練り上げていくという戦略が問われてくると思います。

もう1つが、デジタル田園都市ということで、AIとかその辺をどのようにまちづくりに活かしていくかというのは、大きな課題になってくると思います。

特に、地方の方へ行けば行くほど、立地条件として完全に不利な状態、けれども山が8割、9割あるところで森林に覆われているところが、今、最先端のまちづくりをやっているところがいくつも出てきています。

それは、デジタルを絡めたりとか、いろんな動きを絡めて、本当にアイデア勝負になってくると思うのですけれども、そういうところは、地域資源とデジタルをどのように結び付けるかになってくると思います。

【委員】

先程、市内の小学生を対象に、職業体験を実施するという、それだけでは不十分ということで、農産物をふるさと産品に認定したりというのがあったのですが、それがどう結び付くのかといった時に、多分、小学生向けのお仕事体験ってわりと単発なイベントで終わってしまうようなところがあって、そこに書かれているように、将来の進路について、そこは、結び付いていくかと言うと、何か小学校の時にそんなことやったよね、くらいの感じで終わってしまうかなと感じてしまいます。実際、どのように結び付くかと言うと、ちょっと難しいところはあるかなと思います。

なので、先程あった工業団地と結び付いていくかと言うと、なかなか難しいかなと思います。

それから、小学生だけでなく、他の世代、またふるさと産品も認定しただけでは、

伝わらないと思いますので、AIを活用して周知をしていったらいいのかなと思います。

あと、ふるさと納税と連携することがあるのかどうかということもちょっと気になっていまして、いろんなことをいろんな形で知ってもらうために、ふるさと納税を検索したりすると思うので、そういう形で知ってもらう時に、白井市でどういった製品があるのか、そういったことをお知らせする、周知の仕方というのは大事なのかなと思います。

さっき、縦割りになっているという話がありましたけれども、それぞれの担当がどういった連携を含めていくのか、というのを市の方で考えていただく必要はあるのかなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。行政ってやはり縦割りの部分があるので、プロジェクトチームを組んでいう方法はあるかと思います。

先程お話いただいたふるさとの納税は秘書課がやっていますが、もう一つ企業版ふるさと納税がありまして、この企業版ふるさと納税は、地域再生計画をつくることによって、企業ふるさと納税の募集をかけることができます。

この総合戦略に掲載している事業は、地域再生計画とイコールになっていますので、今後国費以外で、例えば、企業の方から、この事業に協賛してもらおうと、そういった手法はあるのかなと思います。

なので、企業版ふるさと納税というものを、工業団地も含めて、市内外にアピールしていく、そして、その財源を活用して、市の財源を抑えていく仕組みづくりも必要かと思います。地場産業活性化事業も2年目、3年目動かしていかないといけないので、市の財源というものを念頭に置いて進めていきたいと思います。

【委員】

トマト工場が建設される見込みと聞いておりますが、そこはおそらく、農業法人とかが入ってきてという話になってくると思うんですけども、白井の中では、農家さんがたくさんおられる中で、担い手不足というものが出てきて、そういう方々に対しての取組とかいうのを農家さんにどう知らせていくかというのが肝ではないかと思いますが、今いち、そこが見えてきていないので、どのようにしていくのか教えていただきたいと思います。

【事務局】

以前、担当課に聞いたところ、例えば担い手不足の部分を、3月のまち・ひと・しごと創生審議会で言われたタイミーなどの隙間時間を使って、農業分野に携わることを考えていたり、スマート技術を使ってやっていくというような、できるかどうかは分かりませんが、農業分野は発展途中の部分があって、今後その部分に関しては2年、3年進めていけないなと思っております。実際、総合戦略でも、農業の部分については、成果指標がかなり低い数値になっているので、関係課とより指標を高めていく仕組みづくりも今後必要かと感じています。

【委員】

おそらく農家さんと関わっているのは産業振興課だと思うんですけども、横断的に、農業委員の方もいますし、そういう方々と全体で、白井市の農業を推進できるような取組ができれば良いと思っています。

【委員】

現場にいて、農業と環境の方に関係があるかと思うんですけども、今年度まで、焼却業者の方で主に果樹園の剪定枝の方を市の方に出して、焼却させていただきました。

その中で煙とか出て、住民の方も減ってはおりますが、目につく所は多くなって、焼却施設で燃やしてほしいということからの計画だったのだと思うんですけども、私も使わせていただいておりますが、補助金が打ち切られることによって、心配される、住民の不安感につながっていくということもあるので、農業を続けられる新たな補助金、できればプラだけでなく、マイナスの方にも向けていただくと、農業者としても有難いので、意見させていただきました。

【事務局】

ありがとうございます。産業振興課にも共有させていただきます。

【委員】

地場産業活性化事業ということで、いろんな取組を検討されておまして、前回の会議においてもいろんな意見があったかと思います。

その中で、違う切り口として、市内の人口を増やすために工業団地へのアクセスとか農

業事業者さんへのことも考えると市内の交通アクセスも大事なのかなと思っております。

たまに市のバスを使うのですが、ここまで来るのに30分かかったり、バスが定刻に来なかったりというケースもあるので、市内を横断するアクセスは苦勞していると思いますので、そういった観点から、少し長い期間がかかるかもしれませんが、新たな交通アクセスによって、市の人口増加と人口減少の抑制にもなるかと思えます。

【事務局】

交通政策という形で、担当課でも新しい計画を作っていて、確かその時、パブリックコメントをした際にとんでもない数の意見があって、そこは担当課もそれを持って検討していましたので、交通アクセスのニーズが多いのは事実なので、今日の意見も担当課と共有させていただきます。

【委員】

もともと農家の出身でしたが、過疎化の進んでいる都市だったので、農家は辞めて、今、実家は休耕地になっています。その中で、白井市の場合、事業用地となった場合は、莫大なお金が入ってくると思うので、農家同士でも格差が生じているなと思っています。

その中で農地集約は、大変かと思えますので、どのように交渉を進めていくのかなと感じました。

【事務局】

どういったプロセスでやっているかというのは、私も詳しくなく、申し訳ありませんが、委員がおっしゃる通り、都市部と地方の格差はあるかと思えますので、担当課の方へ共有させていただきます。

【会長】

総合計画の中でも謳われている部分もありますし、その中で、どのように白井市の農業というものを活性化させるか、それは、もちろん後継者育成というのもそうですし、集約化も含めた土地利用の在り方をどうするかということになりますし、6次産業を絡めた新たな付加価値づくりというものを検討していくというところもありますし、それから、例えば農福連携という動きもあって、白井市としての農業にどういう価値があるのか、それをどのように膨らませていくかというのは、かなり横断的に考えていく必要があるかと思えます。

【委員】

国から交付金を獲得していかなければならないと思いますし、市の役目として、市民、商工業、農業の方々の意見をうまく取りまとめて、それを国の交付金、市の財源をうまく活用して、役立てるような、また、そういった施策をつくって行って、人口増加につながると思いますから、うまく取りまとめていただいて、活用できる施策を増やしていただければと思います。

【委員】

子どもが社会人になって、結婚、出産を迎えるにあたり、白井市で住むところを探すとすると、物件がなかったり、あまりマンションもなかったりで、住むところがないというところがあって、人口維持、増加を考えるときに、そういうところは市として何か考えているのでしょうか。

【事務局】

担当課の方で、例えば、白井や西白井の駅前について、どういった可能性があるかというのを模索している段階で、ビジョンを描いて、そこから若い世代を呼び込んで人口を増やしていく仕組みづくりができればという状態です。

それで、3月にビジョンを作って進めていく形になっております。

【委員】

総合戦略全般で、今度成田空港の第3滑走路ができるとか、464号線のところも高速道路化もなっていく予定の中で、その辺のところもある程度、見越して何か考えられているのかなというのが1つと、それから工業団地も鉄鋼や金属加工の会社が多いですね。その辺の金属加工の連携もできるのかなと想像しているのですが、世の中、フィジカルAIが普及して、ロボットとか関節を動かすのにAI使ったりしているので、何かそういうところを誘致できないのかなと、成田と東京に近くても途中で降りる人は少ない、けど、ビジネスの観点からポテンシャルはあるかと思います。なので、そういうところも取り込んでいけたらと思います。立地という強みを活かしていければ、まだまだ発展していけるかなと思います。

【事務局】

この総合戦略も5ヶ年計画でやっていきます。今後、交通網のアクセスというのをブラ

シアップかけていく形でつなげていきますので、そのように認識していただけると幸いです。

【会長】

今回いろんなアイデアをお持ちの方がたくさんいらっしゃるし、個々でいろんな動きをされている方もいます。その中で、つながりが弱いと動きが大きくなっていかないところなんですよね。例えば工業団地でも、異業種間連携とか検討されていたりとかあると思いますけれども、そこを他とどうつなげていくかということが大事な課題で、プラットフォームをどう構築していくか、これは行政の役割になってきます。それがあることによって、いろんな人達が、意見を出していける、策を練っていける、そう言った場がないから、空回りしている、これは他の自治体を見ていると本当によく見られるケースなので、今後の動きの中で検討していただけたらと思います。

7 その他

次回開催のスケジュール調整をした。

8 閉会